

世田谷まちづくりファンドのレガシー

25年間の助成事業で積み上げてきたもの

ファンド助成事業の特徴

①公開審査会方式による助成決定

- ・公開の場での運営委員と応募グループ間のやりとりに基づく、助成先・金額の決定(6月)
- ・選考プロセスの透明性と中立性の確保



②「学びあい育ちあう場」としての運営

- ・活動発表会(6月)の開催(以前は年2回(4,10月)開催)
- ・活動グループ相互の情報交換や学習の場として
- ・他グループとのネットワーク形成の機会として



※この他、世田谷トラストまちづくり主催で、まちづくりファンド助成グループを対象とした下記イベントを開催
「はじめの一步ウェルカム懇談会」(7月)
「まちづくり交流会」(10月)

③市民サポーターによるファンド支援

- ・「まちづくり広場」を中心とするサポーターの参画
- ・発表会・交流会などの企画と運営

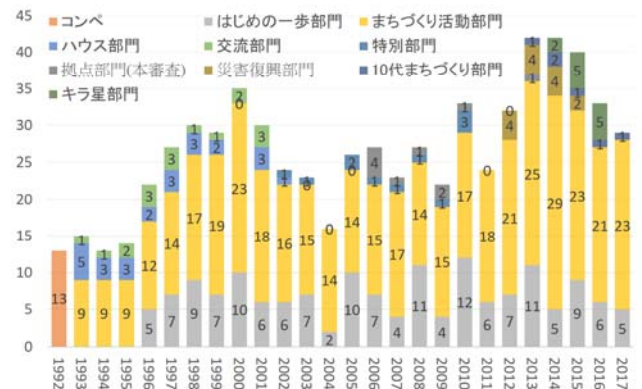


■図 ファンド助成事業の様子

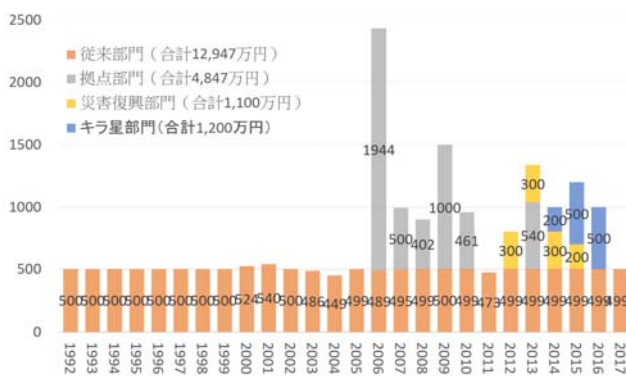
ファンド助成事業25年間の実績

項目	実績値
応募件数	852件
助成件数	714件
応募グループ数	522グループ
助成グループ数	371グループ
助成総額	2億94万円
助成グループメンバー数(推計)	のべ 約8,300人 ※20周年時1グループあたりメンバー数平均12名より試算

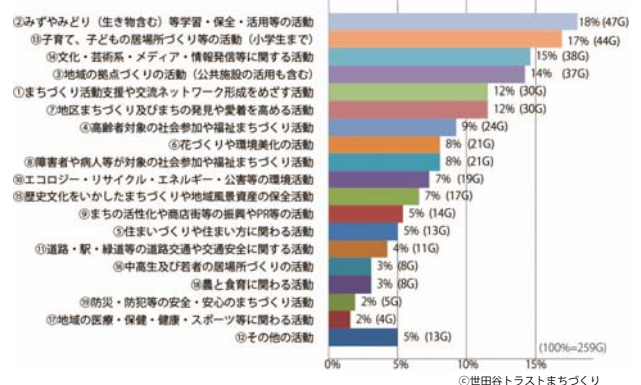
助成件数の推移(件)

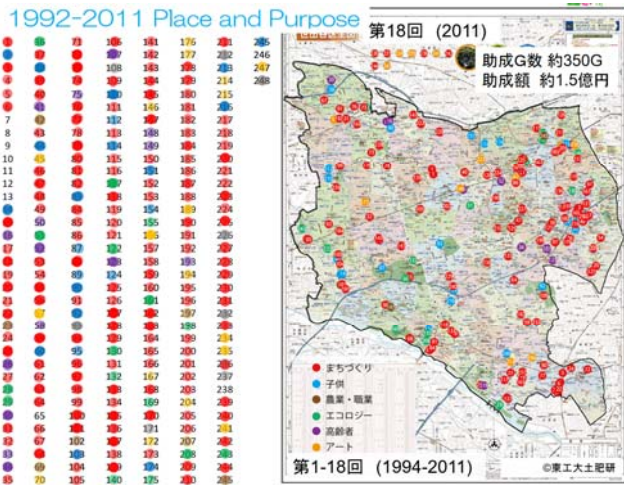


ファンド助成金額の推移(万円)



助成グループの活動テーマ(2011年)

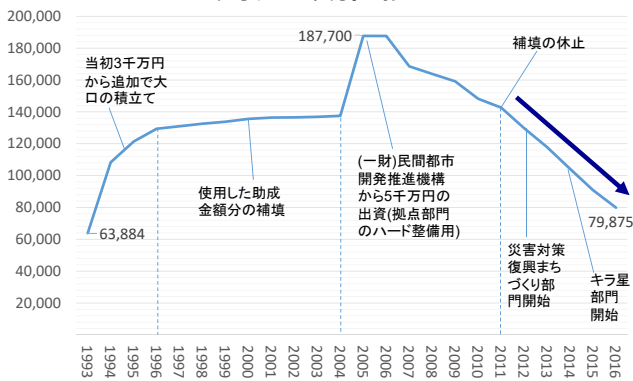




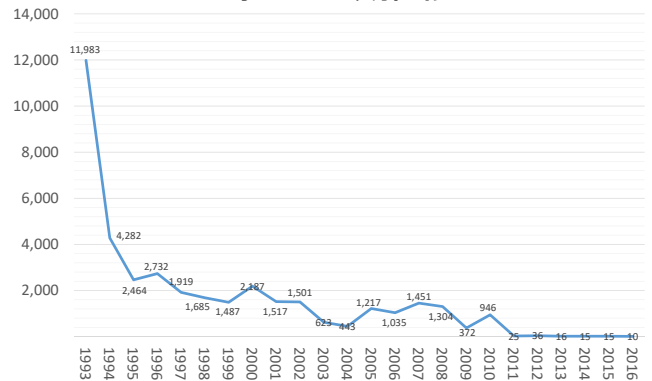
ファンド助成グループの課題

- 人材や組織運営上の課題を抱えているグループがとても多い
 - ⇒グループ立ち上げ時のメンバー(少数精鋭)の問題意識・熱意、労力・体力に大きく依拠した活動が多い
- 活動資金が十全ではない
 - ・ファンドは基本1+3年間のみ
 - ・収益を生むような活動形態でないことが多い

ファンドの財産額推移(千円)



ファンドの寄附金額推移(千円)



公益信託の仕組みの課題

- 現在の仕組みでは「お金を出すこと」しかできない
- 積極的に寄附集めができない
 - ※以前はトラまちが一部を担っていたが、公益法人改革との関連で不可に…
 - ⇒お金がなくなるのを待つしかない?
- 冠基金の設定ができない: 特定の方の想いをくみとった寄附の受け入れができない

ファンドの成果

- ・371グループ、714件のまちづくり活動に助成し区内の住みよい環境づくりの一端を担った
- ・公開審査会・報告会・交流会という交流と学びの場を設定した
- ・はじめの一步部門設定を通じて、区民にとってまちづくり活動を身近にし活動グループを発掘
- ・まちづくりの概念を拡げ区内の様々な市民活動を発掘し促進させるための基盤となった